

基本評価シート

様式

北海道 根室・根室区域

(北海道根室振興局保健環境部環境生活課)

基本評価シート（ニホンジカ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	北海道指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画（ニホンジカ）		
	令和6年度（2024年度）エゾシカ指定管理鳥獣捕獲等事業委託業務（根室地域）		
都道府県名	北海道	担当者部・係名	根室振興局保健環境部環境生活課自然環境係
担当者名	西嶋 圭	担当者連絡先	0153-23-6823
捕獲実施事業者	（認定を受けている・ 受けていない）	予算額（※2）	195,038,000円
		予算額の内捕獲に 要する経費（※3）	108,148,000円

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2 指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和6年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 (目標頭数などの数値目標)	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
100頭	72頭	72%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
73万頭※ (個体数指数：東部148、北部127、中部112、南部388)	東部：R8末に個体数指数50以下（H23を100） 北部・中部：R13末に個体数指数50以下（H23を100） 南部：R8末までに減少に転じさせる	設定していない
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲(個体数調整)
35,232頭(R5)	61,491頭(R5)	58,803頭(R5)

※令和5年度推定生息頭数。東部（オホーツク、十勝、釧路、根室）、北部地域（空知、上川、留萌、宗谷）、中部地域（石狩、胆振、日高）の合計。南部地域（後志、渡島、檜山）は、これとは別に3~22万頭の間と推定

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

H9以降、道が策定した「エゾシカ保護管理計画」（H27以降「エゾシカ管理計画」）に基づき、狩猟期間の延長や可猟区域の拡大、雌ジカ捕獲制限の緩和、一斉捕獲の実施、モニタリングに基づく個体数指数を用いたフィードバック管理の推進等の対策を進めてきた。

2. 令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	<p>第二種特定計画である「北海道エゾシカ管理計画」において、指定管理鳥獣捕獲等事業について「エゾシカによる生物多様性への影響や被害等が深刻又は懸念される地域においては、指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲を必要に応じて計画的に実施する」としている。</p> <p>これに基づき、鳥獣保護区や自然公園など、市町村等による捕獲が困難な地域でエゾシカの捕獲を実施する。</p> <p>【選択欄】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。</p> <p><input type="checkbox"/> 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。</p> <p><input type="checkbox"/> 効果的な捕獲手法の開発を行なった。</p> <p>※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。</p>
人材育成の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	令和 6 年 11 月 1 日～令和 7 年 3 月 14 日(※委託期間)
実施区域	<p>根室市落石地区</p> <p>[落石特定猟具使用禁止区域(銃器)]</p> <p>根室市中心部から南西に16km、温根沼から南に2km、落石岬の東側に位置し、周りは国有林に囲まれ、海に突き出た地形。通年でエゾシカが生息しており、特定猟具使用禁止区域(銃器)のため捕獲効率が低下しているほか、エゾシカに起因する交通事故やJR支障も多数発生している。周辺の農地に被害を及ぼしている個体の逃げ込み場所や、春国岱地区から冬季に移動してくる個体も多く、エゾシカの高密度化が指摘されている。</p> <p>※図面を添付</p>
関係機関との協力	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所：希少種等の情報提供や捕獲事業の情報共有を図る。 ・林野庁北海道森林管理局：国有林内で実施する際の入林等手続き及び捕獲事業の情報共有を図る。 ・(地独)北海道立総合研究機構：捕獲手法や分析等の助言など効果的な事業実施に向けた連携を図る。 ・地元市町村等：地域住民への連絡周知や地元関係機関との調整、捕獲事業の情報共有を図る。
事業の捕獲目標	<p>(72%達成)</p> <p>= (72 実績値) / (100 目標値)</p>
捕獲手法	<p>【銃猟】</p> <p><input type="checkbox"/> 誘引狙撃 <input type="checkbox"/> 巻き狩り <input type="checkbox"/> 忍び猟</p> <p><input type="checkbox"/> モバイルカリング <input type="checkbox"/> 夜間銃猟</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ()</p> <p>【わな猟】</p> <p><input type="checkbox"/> くくりわな <input type="checkbox"/> 箱わな <input checked="" type="checkbox"/> 囲いわな</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ()</p> <p>※1：各種猟法の定義は〇ページ参照、※2：複数チェック可</p>
捕獲個体の確認方法	<p><input type="checkbox"/> 個体の身体の一部(耳、尾など)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 写真(証拠写真は、捕獲者・捕獲個体・捕獲情報を記載したデータの提出。)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> その他(捕獲個体は1頭(生息域調査のためGPS装着)を除き、養鹿場か肉処理施設に搬入され頭数が把握されている。)</p> <p>※複数チェック可。</p>
捕獲個体の処分	<p>捕獲個体の処分について</p> <p><input type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。</p> <p>※複数チェック可</p>

<p>環境への影響への配慮</p>	<p>わなによる錯誤捕獲について <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。 <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。</p> <p>わなによる錯誤捕獲の未然防止について <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。 (内容：こまめに見回りを行い、錯誤捕獲があった場合には速やかに対応するようにした。) <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。</p> <p>鳥類の鉛中毒等について <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。 <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。</p> <p>鉛製銃弾について <input type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。</p>
<p>安全管理の体制</p>	<p>捕獲実施に先立ち、受託者が作成する「捕獲作業計画」において、連絡体制や実施体制、緊急連絡体制、周辺住民等に対する周知体制、及び事故防止に向けた捕獲時の現地立ち入り規制体制等を記載させた。</p> <p>受託者の内部にあつては、上記で定めた安全管理体制に基づき、従事者全員がそれぞれの役割を把握できるよう安全管理体制を構築させた。</p> <p>捕獲事業の実施にあつては、予め捕獲場所、実施期間、及び捕獲手法について市町村等関係機関と調整会議を開催し、地域住民等にチラシを配布するなどにより周知を図らせた。</p> <p>捕獲事業の実施期間は、実施区域へ立ち入る際に腕章を着用し、捕獲事業者であることを明確にした上で、必要に応じ関係者以外の立ち入りを規制した。</p> <p>また、従事者のみならず、地域住民等の第三者の安全の確保に努めるとともに、労働安全衛生法等関係法令に基づく措置を講じた。特に、本業務は冬期間に実施されることから、事前に天候等の情報を入手し、移動時も含めて事故等の無いよう十分な装備と計画のもと実施させた。</p>
<p>捕獲従事者の体制</p>	<p>【雇用体制】 捕獲従事者数：8人 (内訳) 正規雇用者：8人、期間雇用者： 人、日当制： 人</p>

3. 令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

<p>1. 捕獲に関する評価及び改善点※</p>	
<p>【目標達成】</p>	<p>評価：捕獲地域は、特定猟具使用禁止区域（銃器）内であり、銃猟による捕獲は実施されていないこと、また、春国岱地区から冬季に移動してくる個体も多い。令和5年度を除き、ここ数年同事業により約100頭捕獲されており、周辺の聞き取り調査、実地調査の結果もふまえ総合的に判断し、100頭を捕獲目標頭数とした。結果は72頭で捕獲目標頭数には及ばなかった。</p> <p>改善点：同地でのわな設置後の見回りでも、わな付近に多くの鹿が目撃された。しかし、昨年度同様の少雪及び暖冬の影響により、エゾシカが餌に高頻度で誘因されなかったことが目標未達の原因と推測される。</p> <p>撒き餌の実施により寄り付きが増え、昨年度（52頭）と比較して捕獲頭数は増加したが、積雪が少ない年度においては監視の徹底と少数の捕獲の回数を増やすことが重要である。</p>

【実施期間】	評価：適切であったと考える。
	改善点：なし。
【実施区域】	評価：捕獲実施前に行った現地踏査では、樹皮剥ぎや多数のシカの痕跡、実際のエゾシカの群れを確認しており、また、毎年 100 頭以上が捕獲されていたことから、実施区域として適切であったと考える。
	改善点：例年より捕獲頭数は減少しているが、依然として目撃される頭数は減少していないため、引き続き同地点で捕獲を実施する必要がある。
【捕獲手法】	評価：特定猟具使用禁止区域（銃器）内であり、付近に住宅街もあること、また、有効活用の観点からも囲いわなの設置が適切であったと考える。
	改善点：今年度から導入した固形の撒き餌により少雪時であっても誘因する効果があることが確認出来た。しかしながら撒き餌に使用したヘイキューブは牧草ロールより高価であり、労力もかかるため誘因の手法の検討を続けていく必要がある。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：入札により受託者を選定し、受託した事業者の体制は充分であった。
	改善点：受託できる技術等がある業者数が近隣に少ない。
【個体処分】	評価：72 頭の捕獲個体中 71 頭が食肉用として有効活用された。食肉用として有効活用されなかった 1 頭は生息域調査のため GPS を取り付けて放獣した。
	改善点：なし。
【環境配慮】	評価：開始前に希少猛禽類への影響や生態系への影響を専門家等に聴取した。
	改善点：今後も同様の配慮を継続。
【安全管理】	評価：近隣住民、土地所有者への事前周知、現地入口等での注意看板設置、見回り、及び捕獲従事者の研修事などにより安全管理体制を確保し、事故なく事業を実施することができた。
	改善点：なし。
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
特になし。	
4. 全体評価	
<p>昨年度の少雪の影響を受けた捕獲頭数の減少を省み、今年度から撒き餌の実施等の対策を実施した。その効果により今年度も少雪であったが捕獲頭数を目標に近づけることが出来た。しかしながら目標頭数には至らず、今後も効率的な誘因方法の検証や、周辺地域の捕獲事業の実施状況なども確認し今後の事業に活かしていく必用がある。</p>	

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

市町村による許可捕獲（有害駆除）等が実施されていない箇所でも集中的に実施したことにより、生物多様性への影響の軽減、周辺地域の農林業被害及び市街地への出没を軽減させるほか、エゾシカの逃避地を作らせないことによる地域全体の捕獲効率向上を期待している。

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input checked="" type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input checked="" type="checkbox"/> 事業区域ごと <input checked="" type="checkbox"/> 5 km メッシュ <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ <input type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報 ()	
③目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input checked="" type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数※ <input checked="" type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 (わな稼働日数=わな基数×稼働日数)	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

項目	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する上での課題	特になし

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果（必須となる記録項目）

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数^{※1}： _____ 人日

事前調査人日数概数^{※2}： _____ 人日

出猟（捕獲作業）人日数： _____ 人日

項目	令和6年度 (事業年度の値)	令和5年度 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	_____ 人日	_____ 人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数^{※1}： _____ 226 人日

事前調査人日数概数^{※2}： _____ 29 人日

出猟（捕獲作業）人日数： _____ 197 人日

項目	令和6年度 (事業年度の値)	令和5年度 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基×日数）	_____ 90 基日	_____ 79 基日	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項目	令和6年度 (事業年度の値)	令和5年度 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	_____ 頭	_____ 頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②目撃数	_____ 頭	_____ 頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数 ^{※1}	CPUE ^{※2}	SPUE ^{※3}
<input type="checkbox"/> 誘引狙撃	_____ 頭	_____ 人日	_____ 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	_____ 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 巻き狩り	_____ 頭	_____ 人日	_____ 頭/人日	_____ 頭/人日

			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 忍び猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数／のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

②わなによる捕獲

項目	令和6年度 (事業年度の値)	令和5年度 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	72 頭	52 頭	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	0.96	0.96	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	0.94	0.92	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※1	CPUE※2
<input type="checkbox"/> くくりわな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 箱わな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 囲いわな	72 頭	90 基日	0.80 頭/基日 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：わな稼働総数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： 人・時間

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： 71 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

生体捕獲で搬入施設と受託者が同一の場合（搬入施設においてトレーサビリティ管理がされている場合に限る）は、捕獲個体の確認について、写真等の外、「指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲個体確認書」を提出させる。また、事業期間中、完了後に関わらず、道の要請に応じて捕獲個体のトレーサビリティ管理記録を開示させる。



(凡例)
捕：捕獲数
C：CPUE

【メッシュ番号】 タ 6 4 1
わな猟 (囲いわな)